

参考資料 1

岩手県南部における古代の土器群編年試案

最後に巻末に掲げた編年表の簡単な説明を行なう。編年にあたっては“組みあわせ”を重視した。それは器種・技法ともにである。また諸先学の諸業績に従ったのはもちろんである。紙数の関係からその詳細な説明は省き、結論のみを記す。

第Ⅰ群土器 水沢市高山TK 02住居跡、同西大畑遺跡溝跡出土資料。表では併記したが、後者が若干古くなる可能性もある。器種組成の詳細は未詳であるが、器台の不在が特徴的である。南半の塩釜式に類似しよう。

第Ⅱ群土器 江釣子村猫谷地遺跡の仮称Ⅰ期の住居跡群（CH 74・DA 62・C J 50住など）出土資料。これらも器種組成は未詳である。同様に南小泉式のやや古い部分に相当しよう。

第Ⅲ群土器 水沢市面塚S I 02住居跡、同西大畑C f 53 住居跡出土資料。後者の組成内容は比較的良好である。報告書によると、長胴甕型に近い甕も存在するらしい。南小泉式の新しい部分であろう。坏型への赤色顔料塗彩が見られる。

第Ⅳ群土器 水沢市膳性G 15住居跡出土資料。器種組成は不明であるが、内外面赤色顔料塗彩の丸底坏を有する。引田式的な色彩が強い。

第Ⅴ群土器 同膳性E 06住居跡出土資料。坏への黒色処理の開始期とも思われる。肩部無段で、胴部下半に最大径のある甕型が伴う。南半の住社式に類似する。坏体部にミガキが存在する。

第Ⅵ群土器 水沢市今泉・膳性、金ヶ崎町上餅田、江釣子村猫谷地の仮称Ⅱa期その他の出土資料が該当する。器種組成はきわめて豊富になる。20個体前後が一セットをなす。坏はより大型品が多い。特異な器種の須恵器を伴う。坏体部には同様にミガキが存在する。栗圀式に類似する。

第Ⅶ群期 甕型に肩部の無段化、底径の大型化と平坦化の傾向が現われ、坏型に小型化・無段化（沈線化）・平底化の傾向が顕著になる。甕・高坏の存在が少なくなる。二分しうる。

VⅦa 群 水沢市玉貫の各住居跡、同石田C i 30 住居跡他出土資料。先の特徴は既に見えるが、坏に大型品も散見でき、かつ、須恵器が日常容器としてのセットになり切っていない段階。

VⅦb 群 水沢市石田D d 03、同東大畑、江釣子村猫谷地B F 21、同鳩岡崎E a 12 住居跡、出土資料、須恵器が日常容器に組み込まれる段階。須恵器器種は遺跡毎の異同があり一様ではない。本群は宮城県糠塚例に極似し、国分寺下層式に相当し、奈良時代後半～末期を占めよう。

VⅦa群は適当な型式名を知らないが、奈良時代前半期のものではあろう。

第Ⅷ群期 類例が激増する。本群にはロクロ使用土師器が共伴しはじめる。土師器は甕・坏

ともにロクロ使用と不使用のものが混在するが、その在り方は遺跡により異同がある。まず、ロクロ不使用坏がやや多く、甕はすべてロクロ不使用の長胴・球胴型からなる例がある。坏は無段・平底のロクロ不使用坏・削り調整をもつロクロ使用土師器（回転糸切り）、ヘラ切り・無調整を主とする須恵器などからなる。別の例ではロクロ不使用坏は皆無かあっても稀少で、甕にはロクロ使用のものも加わる。詳細にのべると、削り調整のあるものを主体とし、若干量の無調整のものを伴うロクロ使用土師器坏と、ヘラ切り、無調整を主体とし、若干量の削り調整（回転・手持ち）をもつもの、および糸切り・無調整の須恵器坏、ロクロ不使用甕、体部上半に叩き目とロクロ成形痕・下半に削り調整痕をもつ土師器甕、須恵器広口壺、同長頸壺、同蓋などからなる。以上の二者からは、ともに高坏・甕は消えており、逆にやや軟質の酸化焰焼成と思われる土器が加わる。これらは平安時代初頭～前半頃と思われるものである。本群以降は遺跡の性格を十分考慮した上で遺物を検討する必要があるだろう。おそらくはいくつかの類型化が可能であろう。

第IX群期 本群にはロクロ不使用土器は原則的には伴なわない。土師器坏は回転糸切り・無調整と、調整あるもの（回転・手持ち）の両者からなる。土師器長胴甕胴部の叩き目はほぼ消える。他に中型甕・埴などがある。須恵器には坏（回転糸切り・無調整のみ）・甕・蓋がある。技法の全般に“省略化”傾向が目立つ。本群には既述の酸化焰焼成と思われる土器が伴なう。^(注)これについては既に見解の発表がある。以上は平安時代後半のものと思われる。

第X群土器以降については不明な点が多く詳述は省き見通しのみをのべる。第X群は所謂須恵系土器を主体的にもつグループであり、坏・台付坏・皿・台付皿・黒色処理の坏・長胴甕・小型甕・埴・耳皿などをもつ。緑釉陶器も共伴する。平安時代後～末期の11世紀代のものと思われる。

第XI群としては詳細未詳であるが、灯明皿的な部厚・粗雑な軟質土器をも有するものが該当しよう。坏・台付坏・皿・甕などからなる。金ヶ崎町西根・鳥ノ海などに比較的良好な資料がある。12世紀以降のものと思われる。経筒と思われる袈裟襷文のある灰釉陶器(常滑焼)を共伴する例もある。 (文責 相原康二)

注 本編年試案の作成にあたっては多くの先学の業績に負うところが大きい。先学の学恩に感謝する。

また、考古学研究会岩手支部の例会における討議内容にも負うところが大きい。会員諸氏に深謝する。以下に編年表に用いた資料の出典を掲げる。

- I 群 ①高山遺跡、TK02 住……………高山遺跡 岩手県水沢市文化財報告書第1集 高山遺跡調査会
水沢市教育委員会 昭和53年3月
“ ②西大畑遺跡、溝……………西大畑遺跡 岩手県文化財調査報告書第60集 東北縦貫自動車
道関係埋蔵文化財発掘調査報告書XI 岩手県教育委員会、日本
道路公団 昭和56年3月
II 群 ③猫谷地遺跡……………和賀郡江釣子村猫谷地遺跡 岩手県教育委員会 昭和49年3月

実測は佐久間豊氏による。

- Ⅲ 群 ④西大畑遺跡、C f 53 住……注②に同じ
“ ⑤面塚遺跡、S I 52 住……現地説明会資料 水沢市教育委員会 昭和55年6月
- Ⅳ 群 ⑥膳性遺跡、G-15住居跡 } 膳性については(財)岩手県埋蔵文化財センター高橋与右衛門氏
Ⅴ 群 ⑦ “ E-06 “ } から種々の教示・実測図の提供をうけた。深謝する。
- Ⅵ 群 ⑧今泉遺跡、B g 62 住他……注②に同じ
- Ⅶa 群 ⑨石田遺跡、C i 30 住居跡……同第61集 同Ⅶ、 同 同
“ ⑩水沢市玉貫遺跡の古代の資料のすべて……(財)岩手県埋蔵文化財センター資料実現による。
山口了紀・吉田洋氏の教示をうけた。
- Ⅶb 群 ⑪石田遺跡、D d 03 住居跡……注⑨に同じ
- Ⅷ 群 ⑫ “ Da 56 “ ……同上
“ ⑬林前遺跡、S F 22 住他……林前遺跡 岩手県水沢市文化財調査報告書第3集 水沢市教育
委員会 昭和54年3月
- Ⅸ 群 相去遺跡Ⅰ期 } 相去遺跡については、岩手県立博物館高橋信雄氏より種々教示と実測図の
Ⅹ 群 “ Ⅱ期 } 提供をうけた。なお、氏とは相去のみならず各群の全般にわたり意見交換
を行ない益する所大であった。深謝する。なお、以下の論文がある。
- ⑭高橋信雄、岩手県のクロロ使用土師器について……考古風土記第2号 昭和52年4月
なお、⑬に対する批判的見解として
- ⑮本堂寿一、極楽寺伝座主坊跡緊急発掘調査報告書一付、寺院跡出土土器の再整理とその考察
北上市立博物館研究報告第3号 昭和55年8月 があるが、ここでは前者にしたがっておく。
今後の検討課題とする。
- Ⅺ群以下については、金ヶ崎町西根・鳥ノ海の個別報告中に詳細に述べられている。
- ⑯西根遺跡 } 岩手県文化財調査報告書第59集、東北縦貫自動車道関係埋蔵文
⑰鳥ノ海A・B・C遺跡 } 化財発掘調査報告書Ⅹ 岩手県教育委員会、日本道路公団
昭和56年3月

参考資料 2

岩手県南部を中心とした古代の住居跡の変遷 (第1図)

表記について概述する。時期区分については既述の編年表にしたがう。

第Ⅰ～Ⅳ群期 古墳時代に相当するものであるが、Ⅰ・Ⅱ群期にはカマドが付設されない。四隅の角張った均正な正方形プランと、対角線上にのり、やや中央による4本の支柱穴を持つ。貯蔵穴様のものは既にある。規模に異同のあるものが組みあわせになる。Ⅲ群期にはカマドが付設されはじめるが、その状況にはばらつきがあり、斉一性はない。長大な煙道は未確認である。第Ⅳ群期にはカマド本体・長い煙道部をともに備えたものが出現し始める。

以上の時期の竪穴軸方位は変化に富み、一定の傾向性は示さない。なおⅢ群期の西大畑例には支柱穴以外に西辺中央の壁直下に柱穴様の2ケのピットもある。

第Ⅴ・Ⅵ群期 四隅に軽い丸味をもつほぼ正方形なプランと、先と同様に対角線上にのるが如くに配置された4本(稀な大規模例では6本以上)の支柱穴、北壁に付設されたカマドなどを有する構造をもつ。斉一性はかなり強く、構築法の確立を示すかのようである。ただし長大